

ボイジャー 1号

今から36年前に打ち上げられた、米航空宇宙局の惑星探査機「ボイジャー1号」は太陽圏を脱出、初めて恒星空間航行の旅に出、2013年9月現在、太陽から約187億kmの宇宙を、時速6万kmで飛び続けているそうです。

彼の任務は、木星や土星に最接近してその映像や観測データを地球に送ることだが、36年前といえばマッキントッシュで革命を起こしたジョブズが、自宅のガレージで組み立てた「APPLE-Ⅰ」を販売していた頃、ボイジャーには6基のコンピューターが積まれていたが、メモリーは全部で68kb、最近のスマートホンの数万分の1、計算スピードは数千分の1、現代から見ると玩具のようなものにすぎない。

これは最近の新聞のコラムの話題ですが、このオモチャのようなコンピューターで人類に貢献した彼の働きに、多少でも技術社会に居た僕としては、不思議な感動を覚えるのです。

彼は2025年までは、地球の僕らに便りを送れるそうです。やがて電源が切れても、彼は神が造られた宇宙の原理で飛び続けるに違いない。そして、一番近い恒星に辿りつけたとしたらけれども、それは2万年後のことなのです。

